第３６０回新経営具体化研究会（9月6日開催）合同研公開セミナー

次期経営計画の検討－３－「新成長構想への提言」

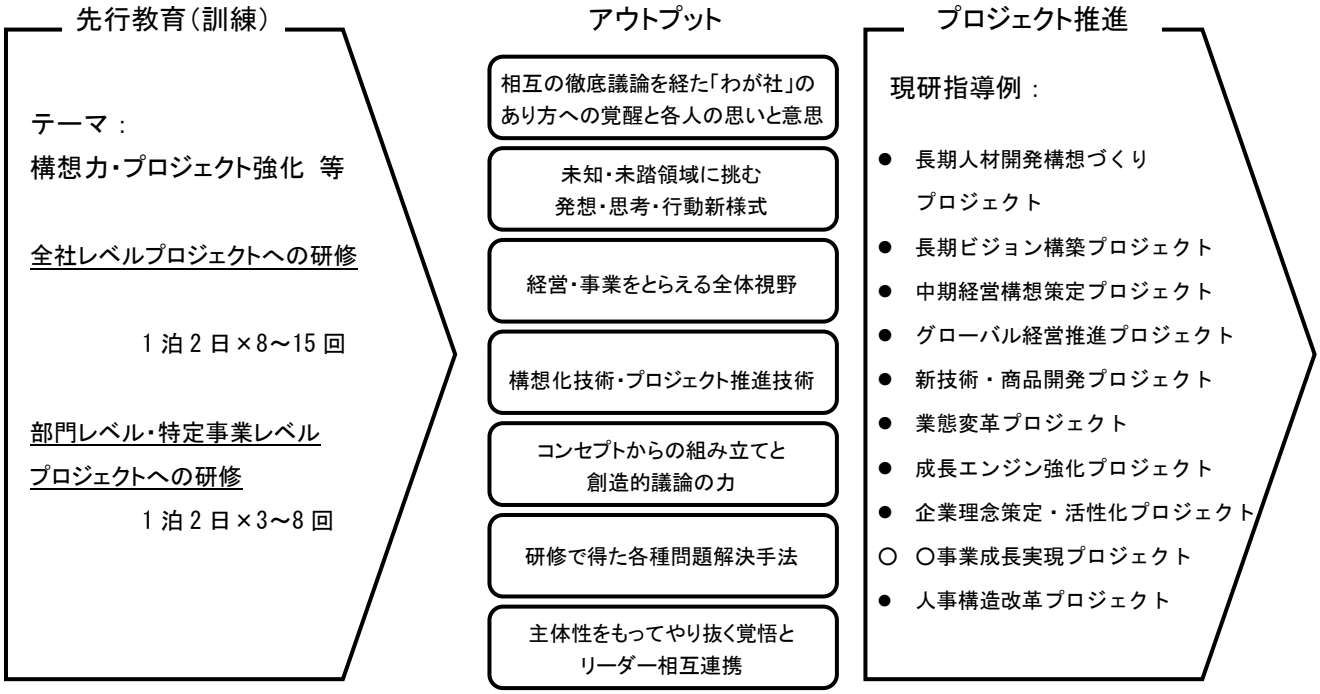
㈱現代経営技術研究所　上級主任研究員　大槻裕志

リーマンショックを分かりやすい契機して私たちの前に顕在化した環境を克服するために、企業に苛烈な生存を賭した競争を戦い抜く必要がある。企業のグローバル化もその文脈の中で進んでいる。東日本大震災は、グローバル化に向けた企業の構造改革という点から言えば、国内生産の柱を維持して雇用を維持するというソフトランディング・シナリオを必死に練っていた企業に対して、否応のないハードランディングの意思決定を余儀なくさせた。

このような状況下でなお企業は成長を目指さす構想をつくり上げたいのであれば、構想立案者自身が相当大きく発想と思考を転換されなければならない…ということはみんなが分かっている、でもできていない！というのが実態である。

この現実を突破するために、以下の訓練先行型プロジェクトモデルを提唱している。既存の思考を叩き壊すくらいの覚悟で臨んで徹底した訓練を積む。そしてそこで訓練を積んだ人材とそこで得た新しい発想を投入して社の死命を決する重点プロジェクトに挑戦するのである。

訓練先行型プロジェクトモデル



講師資料より